

第1回 学生懸賞未来社会エッセイコンテストについて

2019年2月8日

公益社団法人都市住宅学会関東支部

学生懸賞未来社会エッセイコンテスト審査委員長 富田裕

<総評>

都市住宅学会関東支部では、本年度の独自企画として学生懸賞未来社会エッセイコンテストを実施した。はじめての試みであり、どのようなエッセイが応募されるか審査員一同楽しみにしていたところ、最終的に16作品の応募を得ることができた。エッセイコンテストとしたのは、研究論文のようなまとまったものではなくても、着想が独創的であったり、あるいは、自らの研究活動や地域活動をもとにした構想を一定の説得力をもたせてまとめたような試論を広くもとめることで、学際学会らしい自由な議論の場をつくろうとしたためであった。最終的に表彰対象となった5作品については、いずれも学生らしい熱意の感じられるエッセイであったと審査員一同感じている。専門分野の異なる学生から多くの応募が得られたことも本コンテストの成果であった。以下、各エッセイについての個別講評とともに、全文を公開しており、あわせて目を通していただくことができれば、審査員一同の大きな喜びである。

●最優秀1点（副賞：図書カード3万円）

- ・久保 幹郎（東京大学） 「木造密集市街地の現状と未来」

久保幹郎氏の「木造密集市街地の現状と未来」は、木造密集市街地の防災性を改善するための複数の施策を明確に提示し、それぞれの施策のメリット、デメリットを経済学の視点を踏まえ、分析しており、論理の明解性、一貫性、提案の内容等大変優れていると評価された。

●優秀1点（副賞：図書カード1万円）

- ・吉行 菜津美（東京工業大学）「シェアから考える「より良い暮らし」」

吉行菜津美氏の「シェアから考える「より良い暮らし」」は、横浜市の寿地区を題材に、専有部、共有部、セミパブリック部、パブリック部の組み合わせにより住民がシェアの度合いを選べるシェアハウスの提案をしている。住民同士の多様な関わり方選択、時代の変化に対応したフレキシブルな住まい方により可能性の感じられる興味深い提案となっている。

●佳作3点（副賞：図書カード3000円）

・影澤 泰人（東京工業大学）「これからの新しい都市のかたち」

影澤泰人氏の「これからの新しい都市のかたち」は、実現のための具体的施策の考察があるとなおよいと思われたものの、コンパクトなエリアに教育や雇用の整った都市、世帯数の変化に応じた住まい方、都市における緑の配置、ユニバーサルデザイン等を提案している点で評価された。

・伊原 隼人（東京工業大学）「河川と共に生活する都市—堤防を超えるエリアマネジメント—」

伊原隼人氏の「河川と共に生活する都市—堤防を越えるエリアマネジメント—」は、現状の問題点の考察と提案の結びつきがあるとなおよいと思われたものの、都市と河川が一体となった生活圏をCGや河川や建物の断面図を用い、具体的に魅力的な提案を行っている点で大変興味深いものであった。

・久寿米木瞳子（東京工業大学）「住宅地における廃棄物処理場を拠点とした環境まちづくりの提案」

久寿米木瞳子氏の「住宅地における廃棄物処理場を拠点とした環境まちづくりの提案」は、小平市のごみ処理場の建て替えを想定し、小平市の特徴をとらえ、「花と農のまち、こだいら」をコンセプトとしオープンで見学可能なごみ処理場を提案している。足湯施設、たい肥生成施設の併設など、具体的で興味深い提案がなされている。

（富田裕）